

令和6年度 福島県教育研究発表会

二次案内

○ 趣 旨

本県学校教育の向上に資するため、県内公立学校教員（幼稚園等、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校）の優れた教育実践・研究及び福島県教育センターの教育実践・研究の成果の発表と意見交換等を行う。

○ 主 催 福島県教育センター

○ 共 催 福島県教育庁義務教育課

○ 後 援 福島県小学校長会 福島県中学校長会 福島県高等学校長協会

○ 開催日時

令和6年11月21日（木） 9：50～16：00

※希望する研究発表のみの参加も可能です。ただし、基本研修として参加する場合は1日参加となります。

○ 開催方法

**集合形式(会場：福島県教育センター)と
オンライン形式を組み合わせ実施**

○ 参 加 費 無料

○ 定 員 300 名

○ 日 程

9:20 9:40 9:50 10:10 12:00 13:00 15:50 16:00

受付	移動	開会	午前の部 研究発表・実践発表	昼食休憩	午後の部 研究発表・実践発表	閉会
----	----	----	-------------------	------	-------------------	----

◎ 参加申込について

■参加対象 県内外の幼稚園等・小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校・大学等の教職員・教育委員会関係者

■申込方法

◇下の URL(二次元コード)により表示されますフォームに必要事項を入力してお申し込みください。

<https://forms.gle/t634ViabaD2V4VRu7>

◇県内の公立学校教職員(幼稚園等、大学等を除く)の方は FCS アカウントが必要です。FCS アカウントを取得した上で、お申し込みください。

◇申込みが完了した場合には、フォームに入力したメールアドレスに、受付完了の自動送信メールが届きますので、確認をお願いします。

※メールアドレスに誤りがある場合は自動送信されません。自動送信メールが届かない場合は、必ず問い合わせ先までご連絡ください。

■駐車できる台数には限りがあります。公共交通機関の利用にご協力ください。

■問い合わせ先 福島県教育センター 総合企画チーム

TEL 024-553-3193 Email center-happyo-gr@fcs.ed.jp



■申込締切

令和6年10月25日（金）

◎プログラム

受 付

9:20～ 9:40

[オンライン形式] 当日の接続方法については、参加手続き完了後にメール等でご案内いたします。

[集合形式] 受付会場等については、参加手続き完了後にメール等でご案内いたします。

開会・諸連絡

9:50～10:00

研究発表 1

10:10～11:00

◆ D 会場・E 会場では、研究発表 1～5 を通して、「ふくしま教育創造コンソーシアム」として発表を行います。

記号	研究・実践テーマ、発表者	キーワード	発表のここに注目！
A 1	「学び続ける力」を高める学習指導の在り方（第二年次） ー研究協力校における実践的研究を通してー 福島県教育センター 調査研究チーム 指導主事 星 克明	○学びの変革 ○学び続ける力 ○個別最適化された学び ○協働的な学び ○探究的な学び	第7次福島県総合教育計画で掲げられた「学びの変革」の実現に向けて、児童生徒の「学び続ける力」という視点からの授業改善につながる学習指導法の在り方を提案します。 二年次である今年度は、「学び続ける力」に関する理論的研究の成果を基に、個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びをつなぎ、児童生徒の学び続ける姿を支える学習指導法について紹介します。
B 1	実験結果を基に考察する力を育む小学校理科学習指導（第二年次） ー自由試行から問題を見いだす活動の充実を通してー 西郷村立小田倉小学校 福島県教育センター 長期研究員 後藤 太成	○自由試行 ○問題を見いだす ○実験結果を基に考察する力	小学校理科の授業では、自ら問題を見いだし主体的に追究していくことができるように、繰り返し自然の事物・現象に関わる実体験ができる場を設定していくことが大切です。 本研究では、児童が自然の事物・現象に関わり、問題を見いだすことができるよう自由試行の場を設定しました。この自由試行が、実験結果を基に考察する力にどのようにつながっていくのかについてお伝えします。
C 1	高等学校国語科における「叙述に即して論理の展開を捉える力」の育成 ー文章の構造を把握するプロセスの工夫を通してー 福島県立福島西高等学校 教諭 菅野 愛	○「自分の読み方」 ○情報の扱い方に関する事項 ○可視化	文章で表された情報を的確に理解することへの課題を受け、現行の学習指導要領では、「情報の扱い方に関する事項」が新設されました。 「自分の読み方」や「考え」を、可視化・言語化を繰り返してブラッシュアップしていく授業実践を紹介します。
D 1	<u>コンソーシアム</u> 「健幸第一、ほばらっ子！」 ー心身の健康とバランスのよい体力づくりー 伊達市立保原小学校 教諭 菊地 智周	○関わり合う場 ○つながりと連続性 ○振り返り	本校の課題として、「肥満傾向が高い」ことや「虫歯の治癒率が低い」こと等の健康教育と「持久力が低い」ことの体づくりが挙げられます。 そこで「健幸第一、ほばらっ子！」をスローガンに、心身の健康とバランスのよい体力づくりを目指しています。「関わり合う場」と「つながりと連続性」をキーワードにPDCAサイクルを活用した取組について紹介します。
E 1	<u>コンソーシアム</u> 小規模校の特徴を生かした学びの在り方 二本松市立岩代中学校 教諭 甲野藤 友宏	○少人数による学び合い ○個に応じたきめ細かな指導 ○異学年交流	各教科等における資質・能力を確実に育成するためには、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が求められています。 本校で取り組んでいる小規模校ならではのよさを生かした授業や教育実践について、生徒の学びの姿をとおして具体的実践について紹介します。

記号	研究・実践テーマ、発表者	キーワード	発表のここに注目！
A2	統合的・発展的に考察する力を育成する算数科・数学科授業の在り方（第二年次） ー「系統図」を活用した数学的な見方・考え方の成長を促す学習サイクルの工夫を通してー 田村市立大越小学校 福島県教育センター 長期研究員 佐藤 翔英 大玉村立大玉中学校 福島県教育センター 長期研究員 齋藤 真実 福島県立小野高等学校 福島県教育センター 長期研究員 白石 裕太	○数学的な見方・考え方 ○系統性 ○教師の役割 ○振り返りの視点	小中高の系統性を踏まえた授業改善が求められています。 本研究では、子どもが数学的な見方・考え方を働かせることができるような教師の役割や振り返りの場を工夫することで、統合的・発展的に考察する力を育成できる授業づくりを提案します。
B2	「よりよく社会と関わる力」を育む社会科指導の在り方（第二年次） ー多角的思考を促す問題解決的な学習の充実を通してー 伊達市立梁川小学校 福島県教育センター 長期研究員 富田 彩	○問い ○対話 ○多角的思考	多様な他者と協働して社会の課題の解決に向かう力の育成が求められています。 本研究では、児童から多角的思考を促す問いの導出を図ります。また、その解決によって得られた知識をもとに、実社会で活躍する方と社会的な課題について対話する単元構成を通して、社会の在り方について考える授業づくりを提案します。
C2	「論理的でまとまりのある文章を書く力」を育成する学習指導の在り方 ー統合的な言語活動のプロセスを工夫したライティング指導を通してー 福島県立二本松実業高等学校 (安達東校舎) 教諭 伊藤 征洋	○統合的な言語活動 ○書くための目的や場面、状況	英語コミュニケーションⅡにおける「書くこと」の指導では、生徒が情報や考えを伝え合い、共有する活動を通して、より適切な内容を選んだり、表現方法を工夫したりするような指導改善の必要性が示されています。 本研究では、統合的な言語活動のプロセスを工夫して、書く力を伸ばすことができる授業改善の試みを紹介します。
D2	<u>コンソーシアム</u> 向き合う学び ーこだわりをもつー 郡山市立芳山小学校 校長 難波 和生	○対象、仲間、自分 ○学びを照らす ○学びが見える ○学びがつながる「みる」「きく」 ○同僚性 ○ICT を活用した授業分析	生活科「町たんけん」。いつも思いをぐっとひめているゆうこ。「ひと」と出会い、友達と関わることで思いを表出することができた。「学び」は子ども一人一人のものであり、未来に向い、こだわりを持って着実に学び続けています。私たちは、子どもの力を信じ、その思いを表情、しぐさ、一つ一つを丁寧に「みて」「きいて」、丸ごと受け止めながら日々の授業に取り組んでいます。子どもが真ん中の学校をめざす、私たちの日々の姿を紹介します。
E2	<u>コンソーシアム</u> 「次世代のメディアリテラシー育成事業」ふくしま情報モラル教育研究・情報モラルの育成 白河市立表郷中学校 教頭 佐藤 友行	○情報モラル ○情報リテラシー ○リスク教育 ○自己マネジメント力	近年、SNS上でのトラブル、スマートフォンの長時間利用による弊害、フェイクニュースの流通など、情報社会における課題がたくさんあります。 本研究では、より良く情報を扱うための考え方や態度を育成することを目指し、様々な取り組みを行いました。今回は、主に授業実践について紹介します。

記号	研究・実践テーマ、発表者	キーワード	発表のここに注目！
A3	教育の情報化の推進に向けた教員研修の在り方 福島県教育センター 情報教育チーム 指導主事 大内 祐司	○一人一台端末活用 ○授業 DX ○校務 DX	一人一台端末を活用し、個別最適な学びの実現を目指す『クラウド活用型職員会議』を体験してみませんか？ 校務でのクラウド活用と組織における自主研修で《学びの変革》を推進するノウハウを共有します！ 本発表は紙資料を一切使用しない仕様になっています。
B3	「言葉を拠りどころに読み深める力」を育てる国語科授業の在り方（第二年次） ー児童の学びをつなぐ単元デザインを通してー 伊達市立掛田小学校 福島県教育センター 長期研究員 菊池 祥子	○読む方法 ○学びの系統性 ○学びの選択	本研究では、文学的文章の学習において、児童のこれまでの学びを基に導き出した、作品を読む方法を繰り返し活用する、学びの系統性を意識した単元を構想しました。 自分で選んだ読む方法を、複数の作品で繰り返し活用し、よりよく更新していくことで、学びをつなぎ、自分の考えを確かなものにすることが出来る授業の在り方を提案します。
C3	「科学的に思考する力」を育む 高等学校生物の授業づくり ー目的意識をもって探究の過程を繰り返す観察・実験を通してー 福島県立福島明成高等学校 教諭 齋藤 卓也	○問いづくり ○探究の過程を繰り返す観察・実験 ○思考する力	高等学校生物の授業において、生徒が自ら問いを見いだして探究する活動を設定し、科学的に思考する力を育成する授業改善が求められています。 本研究では、実験から生まれた問いを再実験により探究していく過程で、科学的に思考する力を育む授業づくりを提案します。
D3	<u>コンソーシアム</u> 自ら動きだす学び ー考え議論し、自己を見つめる道徳教育の実践ー いわき市立中央台東小学校 教諭 久保木 壮平	○自分を創る ○学校を創る	子どもたちがよりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、考え議論し、自己を見つめる道徳科を要とした道徳教育の実践が求められています。 本校では、「未来を奏でる きらめく感性をもつ児童の育成」を目指し、「自分を創る」「学校を創る」の視点からチーム一丸となって取り組んでいる、子どもたちだけでなく教職員も「自ら動きだす学び」の実践について、ご紹介いたします。
E3	<u>コンソーシアム</u> 「幸せになる健康づくり～『百歳への挑戦』のその先へ～」の実現に向けた学校における健康教育の取組 ー「にしあいづ子の健康あいことば」と自分手帳を活用した実践ー 西会津町立西会津中学校 栄養教諭 山口 郁恵	○生涯にわたる健康づくり ○地域との連携 ○自分手帳の活用	第2期西会津町健康増進計画では、「幸せになる健康づくり～『百歳への挑戦』のその先へ～」をキャッチフレーズに、様々な健康づくりへの取組を実践しています。 本研究では、学校における健康教育の取組として、自分手帳等を活用した健康づくりへの意識化と行動変容に向けた試みを紹介します。

記号	研究・実践テーマ、発表者	キーワード	発表のここに注目！
A4	チームで取り組む親和的な集団づくり 福島県教育センター 教育相談チーム 指導主事 遠藤 寛之	○親和的な集団づくり ○チーム会議 ○学びの变革応援事業	今年度から教育相談チームでは、「学びの变革応援事業」による学校支援を行っています。教員の同僚性を生かしたチーム会議を通して、担任が一人で抱え込むのではなく、チームで親和的な集団づくりを行っている実践校の取組をご紹介します。
B4	小学校—中学校—高等学校をつなぐ英語パフォーマンステストの研究 福島県立原町高等学校 教諭 川村 葉子	○パフォーマンステスト（話すこと〔やり取り〕） ○小中高連携 ○指導と評価の一体化	本県でパフォーマンステストを実施している高等学校の割合は全国平均を下回っており、特に「話すこと〔やり取り〕」の実施が少ないという課題があります。 小中高連携事業で英語を担当する教師達がパフォーマンステストでつながることで意識がどう変わったのか、また、パフォーマンステストを中心に考える指導と評価が一体化した単元構想と授業の実践について、生徒の反応も紹介しながら提案します。
C4	問題解決能力を身につけ、探究し創造する力を育成する学科横断型協働課題研究 —情報技術科と化学工学科と地域企業が連携した商品開発を通して— 福島県立郡山北工業高等学校 教諭 白岩 香	○探究学習 ○学科横断 ○地域連携	情報技術科と化学工学科の課題研究において生徒がコーヒーをテーマに味や香りの好みを数値化し、成分分析による北工オリジナルブレンドの開発・研究に取り組んでいます。企業等との連携による知識・技術の習得、学科を横断した探究的・協働的な活動を通して学びの深化を図る実践について紹介します。
D4	<u>コンソーシアム</u> 「学び合い、高め合う授業の追究—よりよい学級集団づくりを基盤として—」 白河市立関辺小学校 校長 東城 正充	○Q-U テスト ○SGE(構成的グループエンカウンター) タイム ○まとめと振り返り	「主体的・対話的で深い学び」を実現するための基盤は何か？ 本校では、学級集団づくりに着目し、様々な場面で親和的でやる気に満ちた、居心地の良い学級集団づくりを行ってきました。その学級集団をベースとして、対話や振り返りの時間を確保し、本時の学びを言語化する工夫について紹介します。
E4	<u>コンソーシアム</u> 「NIE を活用した特別支援教育」—学力向上に繋がる『できた・わかった・もっとやりたい』を実現する NIE の取り組み— 鮫川村立鮫川中学校 教諭 小河 美智子	○「できた・わかった・もっとやりたい」が学びの原動力 ○NIE と学力向上 ○くりかえすと忘れない	NIE は特別支援教育の学力向上に大いに役立ちます。今回、本校の知的障がい特別支援学級で実践している具体例をご紹介します。また、支援学級に限らず、書くことが苦手な生徒への手立ての例も紹介します。 「できた・わかった・もっとやりたい」こそが、学びの原動力で学力向上にも繋がります。NIE を通して、未来ある子どもたちに質の高い教育を！

記号	研究・実践テーマ、発表者	キーワード	発表のここに注目！
A5	しなやかな思考ができる生徒を育成する指導の在り方 ーリフレーミングの習得・活用とアウトプット活動を通してー 福島県立福島南高等学校 教諭 大橋 明美	○多様な視点による捉え方 ○アウトプット活動	近い将来社会に出る高等学校の生徒が、ストレスを感じても立ち直ったり、困難な状況を乗り越えたりする力を身に付けられるようにしたいと考えました。 物事の捉え方を変えるリフレーミングと動画作成によるアウトプット活動を通して、しなやかな思考ができる生徒の育成を目指した授業実践を紹介します。
B5	課題解決への見通しをもつ力を育む中学校保健体育科指導の在り方（第二年次） ー「学びの視点」を基に、運動実践と検証を繰り返す学習場面を通してー 玉川村立玉川中学校 福島県教育センター 長期研究員 桃井 陽介	○実践と検証 ○運動・スポーツへの多様な関わり方 ○「学びの視点」	運動の課題を発見し、解決に向けて試行錯誤を重ねながら思考を深める学習過程の工夫が求められています。 本研究では、運動・スポーツへの多様な関わり方（する・みる・支える・知る）から課題解決への「学びの視点」を設定しました。それを基に運動実践と検証を繰り返し、仲間と共に試行錯誤しながら学習する授業改善の試みを紹介します。
C5	「探究的な学び」と「コミュニケーション力の育成」をキャリア教育の一環として位置付けた、資質能力を育成するための、3年間を通じた計画的な取組について 福島県立いわき総合高等学校 教諭 伊藤 沙緒里	○探究的な学び ○コミュニケーション力 ○キャリア教育	自己理解に基づいた進路意識を高め、自己の在り方・生き方を考えながら、課題を発見し、解決していく力の育成を重視しています。そのための、狭義の「キャリア教育」に加え、「探究的な学び」と「コミュニケーション力の育成」をキャリア教育の一環として位置付けた、3年間を通じた計画的な取組を紹介します。
D5	<u>コンソーシアム</u> 架け橋期の学びをつなぐ これからの幼小連携 ーモデル地区実践研究の取組ー 田村市立大越こども園 副園長 石井 明美	○架け橋期 ○主体的な学び ○学びの連続性 ○相互理解 ○幼小連携	田村市では架け橋期に育みたい子どもの姿を「主体的に学び表現する子」としています。幼小の交流活動では、教師・保育者が共通の視点で子どもを見取るとともに、働きかけを工夫することで互いの学びの充実につなげています。 「交流活動で何を行うか」の話し合いだけに終わらず、「学びをつなぐために」教師・保育者が相互理解を深められるような幼小連携の工夫を紹介します。
E5	<u>コンソーシアム</u> 「『誰一人取り残さない』多様な学びの場を目指して」 ー若松三中SSRの取組ー 会津若松市立第三中学校 教諭 眞鍋 航大 教諭 甲斐 史	○SSR ○居場所づくり ○学習支援 ○教室復帰 ○不登校生徒減少	若松第三中学校では、令和4年度から独自にmSSR（ミニSSR）として、不登校生徒に対して支援を進め、令和6年度より、SSRとしての運営を開始しました。 多様な学びを支援していく居場所づくりと学習支援、教室復帰に向けたサポート体制、新規不登校減少に向けた取組を紹介します。

福島県教育研究発表会

